なごや文化情報

2017
1・2
January/February

No.372

NAGOYA
Cultural
Information

随想／ティナ棚橋（舞台役者・俳優・ナレーター）　視点／名古屋フィルハーモニー交響楽団創立 50 周年
この人と…ズームアップ／奥山景布子（小説家）　いとしのサブカル／伊藤昭浩（名古屋学院大学教授）

公財団法人 名古屋市文化振興事業団

2017
1・2
January/February

Contents

名古屋市民文芸祭　受賞作品…… 2

随想　今も昔も
ティナ棚橋（舞台役者・俳優・ナレーター）…… 3

視点
名古屋フィルハーモニー交響楽団創立50周年…… 4

この人と・・・ズームアップ
奥山 景布子（小説家）…… 6

ピックアップ
名古屋発のダンス甲子園…… 8

いとしのサブカル　コンテンツツーリズムと758
伊藤 昭浩（名古屋学院大学教授）…… 9

おしらせ……10

「なごや文化情報」編集委員
倉知外子（現代舞踊家）
はせひろいち（劇作家・演出家）
森本悟郎（表現研究・批評）
山本直子（編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表）
米田真理（朝日大学経営学部教授）
渡邉 康（椙山女学園大学教育学部准教授）

表紙

作品
Red（部分）
（2015年／ミクストメディア／H1250×W3600mm）

身近な既製品を使い、ものや色を重要な要素として素材や空間と対話するように制作しています。この作品は雑誌やチラシ等から赤いものの切り抜きを集め大きな立体作品を作るようにコラージュしたものです。

荒木 由香里（あらき　ゆかり）

1983年　三重県に生まれる
2005年　名古屋芸術大学美術学部造形科卒業
2006年　同研究生修了
愛知県を中心に国内外で活動。名古屋市在住。
ホームページ　yukariaraki.com

「2015年　名古屋市民文芸祭」
（第六六回名古屋短詩型文学祭）小・中学生の部
詩の部　受賞作品より　※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市会議長賞◆

名古屋市立有松中学校3年
田口紅稀

こころ

ゆれる　ゆれる
心が揺れる
風に吹かれる
緑のように

いたむ　いたむ
心が痛む
転んだあとの
赤のように

かんじる　かんじる
心が感じる
目には見えない何かを

そして、うごく
心が動くのだ
自分の気づかぬうちに

随想

今も昔も

ティナ棚橋（たなはし）（舞台役者・俳優・ナレーター）

本名:棚橋 真典
高校演劇から舞台に。
同朋大学国文学科卒業後'95年劇団サラダ結成。同劇団主宰。脚本・演出も手掛ける。
メディアと舞台の両輪で活動。'03年中部CM合同研究会・新人賞。'05年'16年同・タレント賞受賞。
'16年名古屋市文化振興事業団　名古屋の演劇人が贈る名作劇場「ルームサービス」主演。

大昔出会った国語の先生。いつも生徒と教育の文句ばかり。課題そっちのけで自分の先生の話や、なぜか歴史の話を授業でしていた。面白かった。ろくに教科書を使わない。テストで驚いた。読んだこともない誰が書いたかわからない文章を羅列され、問いの最後は「この作品に題名をつけよ」だ。難しかった。必死に文章に向き合い想像した。時間いっぱい悩み、ともかく自分で最高のタイトルを付けた。テストが返って来た。○でも×でもなく、△だった。原題はあるはずだから、△の基準は先生のさじ加減。なんか悔しかった。それ以来、その先生を観察するようになった。何を求められ、何を考えている人なのか。授業は観察の場になった。でもタイトルテストはいつも△。やがてその先生は転任していってしまった。

もう一人国語の先生がいた。無表情で怖い先生。この人も教科書を使わない。プリントした短編を持ってきて、「声を出して読め」という。順番に当てられる。文章の初め『これは、清兵衛という…』の『これは』の三文字で、「だめですね。はい次。」と止められる。「これは、清」「はい次。」無表情で次々と切って捨てられる。たった一行が読ませてもらえない。しかも何が悪いのかは言ってもらえない。自分の番だ。「これは、清兵…」あえなく撃沈。結局クラス全員がたった一行も読めず終了。しばらくそんな授業が続いた。恐怖の時間だった。何が何だか何をさせたいのかわからない。やがてみんなで討論が始まった。『句読点だろ?』『間がいらないのか?』『気持ち?』『抑揚?』『声が小さい?』ともかく、その授業では皆が集中し緊張感を持って「文字」に向き合っていた。やがて一行が二行に、読ませてもらえる文字数が増えた。うれしかった。が、結局最後まで読める者はいなかった。やがてその先生も退職していった。どちらにも合格点はもらえずじまい…。
芝居も役者も知らず何も考えていない頃。だけど、いまでも僕の役者としての師である。

脚本をもらった時、いつもふっとそんな授業を思い出す。文字に向き合い、文章に向き合い、作品に向き合い、作家と演出に向き合い、そして観客と向き合う。色も形も音も匂いもない、黒い文字と白い紙切れから無限に世界が広がる。それを役者として体現する。答えはあるようで無い。役者は稽古も本番も毎回テスト。だから手は抜かない。「さて、今日は○がもらえるだろうか?」それがささやかな原動力。

Report 視点

名古屋フィルハーモニー交響楽団創立50周年

今年50周年を迎えた名古屋フィルハーモニー交響楽団（以下、名フィル）。この半世紀、名古屋のクラシック界を牽引してきた名フィルの現在と未来を築く課題はどこにあるのか。感動的な音楽を演奏し多くの聴衆を集め、地域に開かれた名フィルとして展開するための戦略とは。

名フィルの運営を支える事務局に取材した。　（まとめ:渡邉　康）

50周年に絆深まる音楽監督・小泉和裕と名フィル

名フィル50周年にあたる2016年4月より音楽監督に就任した小泉和裕は、就任披露演奏会としての4月定期演奏会に始まり、7月の創立記念日での「バースデー・コンサート」と精力的に演奏会を重ねている。さらにこの11月18日・19日には両者の50回目の共演となる第440回定期演奏会に続いて20日の大阪特別公演、23日新潟公演、24日上田公演と連続して演奏会を開催。この先は2月の愛知県立芸術大学とのスペシャル・ジョイント・コンサート、3月の四日市特別公演、定期演奏会、そしてこの記念年の集大成としての東京特別公演に続く綿密なスケジュールである。

オーケストラの舵取り役である音楽監督は、演奏会で指揮をするだけではなく、演奏活動の中心となる年11回の定期演奏会などのプログラムを決定する。前述のとおり小泉と名フィルの関係は既に44年に渡る。その間に築かれた信頼関係は厚いが、11月の定期とツアーでの3日間連続した演奏会では、さらに両者の絆は深まった。そこで演奏された「バルトーク：管弦楽のための協奏曲」は難曲で、1週間の間に5回の本番をこなすことはリハーサルを含めて演奏者にとっては過度の負担となるために強行軍を行なうのは稀である。その困難な状況を通して演奏力が向上し、音楽の内容が充実して聴衆にも特に好評を得て、両者の絆は深まり名フィルの大きな飛躍となった。

小泉和裕（音楽監督）

転機となった外山・アツモン時代

1966年に結成された名フィルはセミプロの交響楽団として出発した。それから急激にプロとしてのレベルの高い演奏と名古屋での文化の担い手としての存在感を高めていったが、結成15年目の1981年1月から1987年3月まで第3代目の音楽総監督兼常任指揮者に就任した外山雄三時代は大きな転機となった。1981年4月～82年3月のシーズンでは8回の定期演奏会のうちの5回を、1982年4月～83年3月では9回のうち5回の演奏会で指揮をしている。さらに客演指揮者のリハーサルにも立ち会いオーケストラの技術向上を徹底してリードした。中日ドラゴンズの応援は名古屋球場の名物となり、また中京テレビでの名フィル定時番組が組まれるなど名古屋の地域社会への文化牽引者としての存在感を高めた。

外山雄三（音楽総監督時代）

1987年から6シーズン常任指揮者を務めた現名誉指揮者のモーシェ・アツモンはベルリン・フィル、ウィーン・フィルなどの超一流オケの指揮もしたハンガリー出身の名匠。その知名度と演奏の充実で名フィルを日本国内のみならず海外にも広めることに繋がった。アツモンは同行しなかったが1988年には「パリ夏のフェスティヴァル」にシラク市長より招待され欧州デビューを成功させた。その関連として2004年にはドイツ、オーストリア、チェコ5都市公演も成功させている。アツモンが新たに提唱して年末の「第九特別演奏会」を開始し、7回のベートーヴェン・シリーズを大成功させるなど、その活躍によって日本国内のみならず世界にもその存在を知らしめた。

ワールドワイドな存在感を高めたフィッシャーとブラビンズ

最近では2008年4月からの常任指揮者としてティエリー・フィッシャーと2013年4月からのマーティン・ブラビンズがシェフとなった。両者共に、音楽の感覚の鋭い冴えたオーケストラ演奏で人気を得た。古典の人気曲の他にも近現代の新しい曲や新曲を委嘱するなど、同時代の作品の振興に積極的だった。なかでも欧米で注目される藤倉大への委嘱作品は大きな成果だ。欧米の一流ソリストが多く共演したのも両者の力によると

ティエリー・フィッシャー（常任指揮者時代）

ころが大きい。この時期を振り返ると、プログラムや演奏のスタイルが世界に向けて広がった印象がある。その結果、欧米のクラシックシーンを意識した方向性は東京や大阪のコアな聴衆にもアピールした。しかし外国人の指揮者は名古屋に腰を据えてオーケストラと共に歩むといったことにはなりにくいのは仕方のないことである。この時期、名フィルの名古屋色といったものは薄まったのかもしれない。その演奏に特質が感じられなくなったという声も多くあった。オーケストラの演奏能力をさらに高め、良い特質のある音楽を生み出すオーケストラへと前進するためにトレーナーとしての役割を果たせる常任指揮者が求められていたのである。そこで小泉の登場となった。

2016.07.09<バースデー・コンサート>小泉和裕指揮

地域に開かれた名フィルの躍進の鍵は

現在、名フィルの演奏活動を支えている観客の中心は約1700人の定期会員である。そして1ヶ月に1回、金曜日と土曜日の2回開催の定期演奏会では約2600人の来場者数が現状であり、目標の3000人に届いていないという。さらにこの先2017年8月～2018年11月までの16ヶ月間、14回の定期演奏会を予定していた会場の愛知県芸術劇場が改修工事に入るために使用ができなくなる。演奏会の根本を揺るがす大問題が迫っている。そのため、会場を金山の日本特殊陶業市民会館フォレストホールに移すことが必要となる。比較すると古い市民会館は音響効果が劣る。若干外の音が漏れ聴こえてしまうことが稀におこる防音効果の不備、座席数が約500席増加することによる空席率の増加、そして都心の栄を離れるといったマイナス要因があり、観客が減少する危機感がある。そのために定期会員・セット券の割引率を市民会館開催分については3割引から4割引に大幅に高め、観客離れを防ぐ対策をしているが根本的な解決にはならないかもしれない。

やはり演奏内容の充実こそが名フィル躍進の鍵であろう。□

伝えによる良い評判こそが新たな聴衆を獲得する。この地域の潜在的なクラシック聴衆の数はかなり多いと推測されている。その隠れた聴衆に演奏会に来てもらうためには前述もしたが、優れた指揮者・指導者によるトレーニングで両者がともに歩み、良い演奏を超えた感動的演奏を展開しなければならない。

まちかどコンサート

それは言うまでもなく難しい道のりだ。多くの観客を集めて全国的な話題となっている広上淳一常任指揮者の京都市交響楽団もその人気を得るまでに5年以上の年月を積み重ねたという。名フィルと小泉監督の良い関係がスタートしたこのチャンスを活かして長期にわたってじっくりと取り組み、良い音楽を生み出すことが期待される。

それに加えて、現在も続いているウィーン・フィルのメンバーとの交流や世界の超一流指揮者や演奏者との共演も、劇的と言って良いほどの刺激がメンバーに伝わりレベルアップの効果を上げる。例えば最近では10月の定期公演で登場した世界を代表するピアニスト、ミハイル・プレトニョフが楽員にもたらした音楽の成熟は聴衆にもはっきりと感じられた。そういった人気演奏家は3～4年先のスケジュールまで既に決まっている場合がほとんどで2年先までしか会場を押さえられない名古屋の公共ホールの現状では予約を確定することが難しいという。他都市の民間ホール並の時間的な余裕を持たせる配慮が必要かもしれない。

通常の演奏会活動と並行して、地域との交流活動として様々なスタイルの活動も展開している。名古屋市美術館や科学館などでの「まちかどコンサート」。名フィルの拠点、金山の音楽プラザ1階での月1回の「サロンコンサート」、「公開リハーサル」。各地の市民会館や学校への「移動音楽教室」やアウトリーチ。1999年より開催されている「夢いっぱいの特等席」福祉コンサートなどである。これらはクラシック音楽を知る良い機会となっている。さらには名古屋市の小学生に1度で良いからコンサートホールに足を運んでもらう機会を設けるといった事業も効果がありそうだ。演奏の更なる充実と地域にクラシック音楽の魅力を広める活動の両輪で名フィルの躍進を期待し、この地域の文化の熱い高まりを力強く牽引してほしい。

公開リハーサル

この人と… ズーム・アップ

「ズーム・アップ」は、現在活躍中の若いアーティストを取り上げる「この人と…」の特別企画です。

小説家

奥山 景布子（おくやま きょうこ）さん

歴史小説を未来につなぐ

2018年2月に公演が予定されている名古屋市文化振興事業団企画公演、ミュージカル「山三と阿国（仮）」。脚本を担当したのは、名古屋在住の歴史小説家、奥山景布子さんです。戦乱の世では成り立たない芸能の重みを伝えられたらと挑戦した脚本が、今年の3月に完成しました。古川美術館や安城市の文学講座でお話をしたり、学生落語の全国大会「てんしき杯」で審査員を務めたりと、歴史小説以外でもご活躍中の奥山景布子さんを、仕事場兼お住まいに訪ねました。（聞き手:山本直子）

やっと就職した大学をうつ病で退職

奥山景布子さんは、初めて応募した「平家蟹異聞」でいきなりオール讀物新人賞を受賞します。2007年のことです。それから9年間で『源平六花撰』『時平の桜、菅公の梅』『たらふくつるてん』などの単行本8冊、『清少納言と紫式部』『幕末ヒーローズ』『大江戸ヒーローズ』など児童向きの新書7冊を、こつこつと上梓してきました。

大学専任講師を経て創作活動に入ったと略歴にありますから、まずは、どんなタイミングで創作活動に専念されるようになったのかを、ぜひ伺いたいと思っていました。ところが、いざインタビューをはじめると、奥山さんから思わぬ発言が飛び出しました。

「大学はうつ病で退職しました。国語の教師として、ノートのとり方やレポートの書き方を教え、留学生に日本語を教え、入試問題を作成し……と、責任の重い学内業務を任されて論文を書く時間もありませんでした。5年間がんばりましたが、6年目は休職したあと、復職する気力はどうしてもわきませんでした。そのころは、すっかり落ち込んで、家事もできない状態でした」

それでは、いつから小説をと驚く私たちをしり目に奥山さんの話は続きます。

「夫が『小説、書いてみれば』と言ってくれたのです。大学で入試問題を作るときに、『オール讀物』や『小説すばる』などの文芸誌を片っ端から読んでネタをさがしていました。そのころ夫とは、『もし書く側に回れたら楽しいかも』と話していましたから。とはいっても、まずはカルチャーセンターに通って小説の書き方を勉強しました」

大きな段ボール箱の中が遊び場だった

そんな奥山さんが初めて小説に出会ったのはいつだったのでしょう。

「両親は九州から出てきて紡績関係の会社で働いていました。ガチャマン景気と言われたころです。近所に同年代の子どもがいなかったので、保育園から帰ってくると、父の工場で糸が入っていた大きな段ボール箱の中に入れられて、ひとりで遊んでいました。絶対に外に出てはいけないと言われ、トイレに行きたいときは旗をふれと、赤と白の旗が置いてありました。そして、そこで本が好きになりました」

2007年、オール讀物新人賞受賞

「中学校では運動部に入りましたが、いじめにあい部活を転々としました。3年生のときの担任が演劇部の顧問で、誘われて芝居の面白さを知りました。自分とは別の人になってセリフを言うのは楽しかったです。ただ、

『たらふくつるてん』出版記念落語会
左から橘ノ圓満さん、中央公論新社社長 大橋善光さん、奥山景布子さん、柳亭左龍さん、柳家喬太郎さん　大須演芸場にて

高校に行くと、子どものころから本格的に演技の勉強している人たちがいて、演じるほうはあきらめました。北村想さんも野田秀樹さんも、芝居はたくさん観ました」

平安ものが好きだった奥山さんは、大学は国文科に進み「源氏物語」をはじめ古典の勉強に励みました。身近に歌舞伎が好きな先輩がいて、歌舞伎にもはまりました。

最初の作品は歌舞伎から生まれた

新人賞を受賞した「平家蟹異聞」が収められた『源平六花撰』には、6つの話がありますが、すべて女性が主人公です。20～30代に歌舞伎を数多く観た奥山さんは、歌舞伎に出てくる女性の登場人物をクローズアップしたらどうなるかと考えました。常盤御前、千鳥、松虫、静御前、相模、建礼門院徳子の6人が、それぞれの人生をしっかりと生きていく姿が描かれ、心を打たれます。歴史小説を読むと、どこまでが事実なのかと気になります。奥山さんは「案外つくり話が多い」と笑いながら、実は調べることが大好き。史実を調べ始めると止まらなくなるようです。担当の編集者に「もう調べなくていいです」と言われているくらい。この徹底した事実を追求する姿勢が、現実感のある主人公を生みだしているにちがいありません。

また、小説を書きはじめたころに、カルチャーセンターで長唄の先生について三味線も習いはじめます。北原亞以子先生が大好きで、深川澪通りシリーズや慶次郎縁側日記シリーズを繰り返し読んで、江戸ものを書くなら三味線が弾けたほうがいいと思ったからだそうです。そして、生まれたのが『稽古長屋　音わざ吹き寄せ』。「オール讀物」に3年にわたって9話が掲載され、2014年に単行本になりました。

歌舞伎、能、狂言など、ライブでやっているものなら何でも楽しいという奥山さんが、ここ10年ほど頻繁に通っているのは落語会。演者によってガラッと変わる古典落語は、同じ人物を扱っても書き手によって変わる歴史小説に通じると言います。落語も歴史小説も一人で世界を作るところも似ていて、落語家さんには大いに親しみを感じているそうです。江戸落語の始祖といわれた鹿野武左衛門の半生を描いた長編小説『たらふくつるてん』は、もちろん、この落語好きから生まれました。

将来の読者を育てたい

親しくなった編集者が児童書担当に異動したことで生まれたのが児童向けの歴史ものです。2012年に『日本の神さまたちの物語　はじめての「古事記」』を出して、2014年

これまでに出版された作品

からは1年に2冊のペースで新しい本が出ています。戦国あり、幕末ありと幅広い時代が対象になっています。

「もともと研究者の出身なので調べることは苦になりません。大学で教えていたころも、学生の「わかった」という顔が見たくて、試行錯誤していました。児童向けの歴史ものも、得意でない分野であっても調べてなんとかなるものなら引き受けて、子どもたちに歴史の面白さをわかってもらえたらと思います。テレビ番組での時代劇もなくなってしまったので、将来歴史小説の読者がいなくなってしまわないように」

最後に、どんな時間帯に執筆されるのかも訊いてみました。

「夫を送り出して洗濯と掃除を終えて、9時頃には机の前に座るのが目標です。ブログを更新したり、昨日書いたところを読み直したりして、気持ちを整えていきます。ずっと書き続けているわけではなく、三味線を弾いたり、ねこと遊んだりもします。夜、夫が帰ってきたら、よほどのことがない限り書きません。2人でお酒を飲んで話をしている時間が楽しいので。料理は夫のほうがはるかに上手です」

仕事場
本棚の本は、いま書いているものにあわせて揃えます

『源平六花撰』や『たらふくつるてん』からは、作者が楽しんで書いている様子が伝わってきましたが、その理由がわかった気がしました。

ピックアップ

名古屋発のダンス甲子園

2016年9月4日に「NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション」が愛知県芸術劇場大ホールにて開催された。愛知・静岡から17校32チーム、約600人が参加した。名古屋発のダンス甲子園として2009年から始まり今年で8回目。神戸で開催されている「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」は長い歴史があり、技術、表現などレベルの高い評価で全国的に認知されているが、名古屋では学生に限るコンクールは筆者の知る限り無かった。名古屋文化短期大学（NFCC）の働きかけにより坂本久美子氏を審査委員長とし、名古屋発のダンス甲子園を開催した。東海地区の高校へ毎年出向き参加への勧誘をしたが、神戸への参加がメインとなっていて、各地にあるコンクールには消極的だった。だが、努力の甲斐あって参加数は年々増加している。ジャンルを問わず学校単位にすることで一過性のものでなく育てることと、その後の過程もみることを目的にした。

第8回NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション優勝作品
「心の軋み～その手を離さないで～」（至学館高等学校）

審査員は観客と共に決めるという視点を持ち、評価を公開する。学校側の協力もあって、指導者の引率も参加条件になっている。審査委員長の坂本氏は「年々、レベルは向上しているが独創性とメッセージの発信力を高めていくことと、ヒップホップ系はテクニックを競う傾向が強くメッセージ性に乏しい。ジャンルがクロスオーバーする中で、独自の表現を見つけ出してほしい。現代舞踊には新しい表現を若い世代に期待できる予感がする」と語る。第8回の優勝は至学館高等学校、2位は愛知県立旭丘高等学校と岡崎市の光ヶ丘女子高等学校、優秀なストリートダンス作品に贈られる「坂見誠二賞」は静岡県立浜松東高等学校だった。今回に限らず、過去のコンクールに長年にわたり参加して賞や評価を得てきた上位3校の指導者に現状を尋ねた。「中学校でダンスが必須科目になり、その相乗効果でダンスに触れる機会が増え、プラスの要因になっているが、卒業後も継続することは難しい。しかし、ダンス課程の大学への進学や、教員になってダンス部を立ち上げたり、独自の活動をして発信する人達もいる。学校側も理解が高まり、協力環境に感謝している。」と3人の指導者は語る。全国的に高い評価を得て今の活動に繋がっている。（K）

第8回NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション準優勝作品
「ウーマンリブー私たちの終わりなき闘いー」（旭丘高等学校）

至学館高等学校： 「NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション」7回参加
2016年優勝
「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」11回参加
2011年NHK賞、2014年準入賞

旭丘高等学校： 「NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション」3回参加
2016年準優勝
「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」27回参加
日本女子体育連盟理事長賞1回、神戸市長賞1回、特別賞4回
準審査員賞1回、入選13回

光ヶ丘女子高等学校： 「NFCC・全国ハイスクール・ダンスコンペティション」8回参加
2016年準優勝
「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」27回参加
NHK賞2回、日本女子体育連盟会長賞7回、特別賞4回、
奨励賞2回、審査員賞2回、準入賞2回、入選8回

いとしのサブカル

コンテンツツーリズムと758

名古屋学院大学教授
伊藤（いとう） 昭浩（あきひろ）

1972年、東京都生まれ。東洋大学大学院修了、博士（経済学）。2015年より名古屋学院大学教授。情報社会論と公共政策が専門。現在、国際公共経済学会事務局長、project758 プロデューサー、NPO法人 LiNKS 理事長などを務める。

私の研究領域にコンテンツツーリズムという概念がある。端的にいえば、アニメやマンガといったサブカルチャーが地域にコンテンツを付与し、作品と地域がコンテンツを共有することで生み出される新しい旅行行動・観光をさす。たとえば、アニメ「らき☆すた」の舞台となった埼玉県久喜市、最近ではアニメ映画「君の名は。」のイメージとなった岐阜県飛騨市など、アニメの世界を追体験しようと多くのファンが訪れ、それが地域振興へとつながる事例は増えている。

私の勤務する大学でもコンテンツを通じて地域活性化につなげようと、大学教育のなかでコンテンツを創り、名古屋の魅力を発信していく事業「project758」（http://p758.jp）を実施している。

このproject758の特徴は、学生たちが若者の目線で名古屋の地域資源を掘り起こし、若者向けコンテンツとして“キャラクター”化をおこない、その様子を視聴者参加型のインターネット放送（ニコニコ生放送）として配信していることである。学生たちが地域を調べてキャラクターを描き、台本づくりや司会進行、演出まで手掛けている。プロデューサーとしては見守るばかりだが、第24回目の放送となる現在まで平均7千ビューと全国の方々に“名古屋”を楽しんでもらっている。

project758のもうひとつの特徴は、プロの声優に「声」をあててもらい、創作したキャラクターたちに“命”を吹きこんでもらっていることである。現在まで16体のキャラクターを創ってきたが、名古屋港水族館をモチーフにした湊ヒメ役に日笠陽子さん、あつた蓬莱軒をモチーフにした莱まひつ役に洲崎綾さんなど、人気・実力のある声優に動画コンテンツや音声ドラマで演じていただいている。

2016年11月に実施された名古屋市熱田区のイベントでは、スタンプラリーならぬカードラリーを実施して13枚のキャラクターカード（ボイス付）を市内外の参加者に配布し、盛況のうちに終えることができた。同日に実施したインターネット生放送の公開収録では、河村市長の録音ボイスと声優9人による朗読劇も開かれ、大いに盛り上がった。こうしたイベントは今回で4回目、熱心なファンの方々は、遠くは北海道や九州、海外からも参加してくれている。

冒頭で述べたコンテンツツーリズムは、地域経済の振興に注目が集まりがちだが、地域情報を発信することは地域のイメージアップとなり、結果として地域住民の誇りの醸成に資する。また、住民自身がそのコンテンツを消費することで地域の魅力を新たな視点から再発見し、地域に対する愛着心の向上に資する。これこそがコンテンツツーリズムのもっとも重要なファクターである。

2016年7月に公表された「都市ブランド・イメージ調査」では、名古屋市が主要8都市の中でもっとも魅力に乏しい都市に挙げられた。圧倒的な最下位からの逆襲、project758が名古屋の魅力をつたえる一助となれば幸甚である。

Studio五組によるキービジュアル

名古屋市文化振興事業団2017年企画公演

Im Weissen Rössl

Rudolf František Josef Benacký

オペレッタ「白馬亭にて」

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する企画公演を開催しています。1985年の「三文オペラ」を皮切りにミュージカルやオペレッタをオーディションで選ばれた地元のキャスト・スタッフとともに上演してきました。33回目を迎える今回は、ドイツでオペレッタ作曲家として活躍した後、アメリカに渡り映画音楽も多数手がけたラルフ・ベナツキーの代表作、オペレッタ「白馬亭にて」を日本語上演します。オーストリア・ザルツブルクのヴォルフガング湖畔にある高級リゾートホテル「白馬亭」の美しい女主人ヨゼッファと給仕長レオポルト。この二人と個性豊かなホテルの来客たちが織りなすコミカルでおしゃれなラヴストーリーを、どうぞお楽しみください。

【音楽監督・指揮】 井村 誠貴（いむら まさき）

Profile

1994年大阪音楽大学コントラバス科を卒業。これまでにオペラレパートリーも50演目を越える。2001年には、年間オペラ公演回数が日本人第4位に入るなど、その地位を確立している。管弦楽では、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団等を客演。ミュージカルでは、1999年の「ラ・カージュ・オ・フォール」を皮切りに、「マイ・フェアレディ」「レ・ミゼラブル」（いずれも東宝）「ペテン師と詐欺師」「The Musical AIDA」「キャバレー」のロングラン公演全国ツアーを成功させ、ライヴCD、DVDを発売。また、岩崎宏美、今陽子、ダ・カーポら実力派シンガーとの共演も多く、コンサートでは軽妙なトークも話題となっている。指揮を湯浅勇治、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在オーケストラMFI指揮者。名古屋市文化振興事業団企画公演では2013年オペレッタ「こうもり」を指揮。

オペレッタ「白馬亭にて」が面白い!!

33年に渡り舞台芸術作品における若手人材育成に貢献してきた名古屋市文化振興事業団。これまでにも多くの素晴らしい人材を育て上げ、今や日本各地で第一線として活躍する人材を輩出してきた。そんな事業団が今シーズン自信を持ってオススメする作品は、ザルツブルクを舞台にしたラヴコメディ・オペレッタ「白馬亭にて」。民族色が強い作品故に、日本ではなかなか上演機会に恵まれない作品だ。オペレッタからミュージカルへの架け橋的な存在であるこの作品は、それまでのオペレッタにはない『作曲家共作』という発想で創り上げられた新時代の舞台作品だ。もちろんドラマを創り上げる中心にいるのは作曲家ベナツキーだが、その他にもロベルト・シュトルツらといった、当時の人気作曲家を集結させたこの作品は、ワルツありポルカあり!ヨーデルあり!?はたまたジャズあり!?といった正に『音楽の宝石箱』!そんな珠玉のオペレッタ「白馬亭にて」を皆さまにお届けするカンパニーは、これまた『舞台人の宝石箱』!高校生から還暦を迎えた人までと、世代を超えた舞台人が集結。若さ溢れる舞台、円熟の舞台を同時に味わえる「白馬亭にて」を見逃す訳には行かない!!上演機会に恵まれない作品だけに手探りで始まったこのカンパニーだが、今や自信を持ってオススメできる作品に仕上がろうとしている。こんな最高に面白い舞台!是非ともご鑑賞ください!

【上演台本・訳詞・演出】 池山奈都子（いけやま なつこ）

Profile

名古屋音楽大学声楽学科卒業。名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団などのオペラ、ミュージカル公演において数多くの演出家の助手を務めた他、CBC国際音楽祭、津山国際音楽祭、マカオ国際音楽祭などにもスタッフとして参加するなど研鑽を重ねる。現在は福岡・鹿児島・広島などのオペラ公演にも演出スタッフとして関わり、オペラ、ミュージカルの演出をはじめ、コンサート、リサイタル、合唱団の公演の演出も手がけている。名古屋市文化振興事業団企画公演には第1回目から16年間（第8・9回目は除く）、演出助手や舞台監督助手として参加。

平成25年度名古屋市芸術奨励賞受賞。名古屋音楽大学准教授。

喜びと感謝を込めて

今回上演されるオペレッタはオーストリアのザルツカンマーグートにある、ヴォルフガング湖畔に佇む実在のホテル「白馬亭」を舞台に巻き起こるコミカルなラヴ・ストーリー。ザルツカンマーグートはオーストリアの宝石箱とも形容され、「岩塩の採掘で栄えた街・ザルツブルクの東南に広がる山岳・湖水地帯の真珠」として、その文化的背景は世界文化遺産にも登録され、世界でも有数の美しさを誇る名所です。

さてオペレッタ「白馬亭にて」に登場する人物は個性豊かなキャラクターばかり。ホテルの未亡人女将に思いを寄せるボーイ長のカップルと客2組のカップルを軸に、民族色も豊かにアンサンブルメンバーはホテルの従業員・村人達・観光客を次々に演じていきます。ウィーンでは現在も人気の高いオペレッタとは言え「オペレッタ」から「ミュージカル」への過渡期に生まれた作品のため、台本・楽譜・音源・映像資料など手に入る資料はわずか。生みの難産は覚悟!ならば創造+想像で楽しむべし!そして上演機会も稀な作品なので必見!!足をお運びいただければ幸いです。

私を育ててくれた企画公演に演出家として戻れた喜びと感謝を込めて、まずは本番までの時間を大切に、充実した稽古を送れるよう出演者・スタッフ共々、全力で取り組みたいと思います。

【振付】 松村 一葉（まつむら かずは）

Profile

3歳から母である川口節子に師事。16歳から渡米、サンフランシスコシティーバレエスクールに4年間所属。2003年のRegional Dance of Americaに作品を出品する。2004年ニューヨーク州立大学舞踊科に奨学金を得て入学。バレエ、モダンダンス、創作技術を学ぶ。2008年に同大学を卒業してBFA取得後、帰国し川口節子バレエ団の指導者・振付者として本格的に活動を開始。2012年American Ballet Theatreナショナルトレーニングカリキュラム、Primary-Level5の公認教師に認定される。2016年第73回全国舞踊コンクール群舞部門の振付を手がけ、グループを第3位に導き、優秀指導者賞を受賞。2016年度名古屋市芸術創造センターバレエアカデミー講師を勤める。

ジャンルの壁を越えて楽しんでもらえる作品

この度30年以上の歴史をもつ名古屋市文化振興事業団の舞台に携わらせていただくことになり、身の引き締まる思いの反面ドキドキワクワクでいっぱいです。事業団の舞台はもちろん、バレエやダンス以外の公演の振付を手がけるのは初めてのことで、皆さんの歌とお芝居に触れたオーディションの初日からすでに胸を弾ませていました。

この「白馬亭にて」という作品は参考資料が少なく、映像や音源も完全版がないまま振付がスタートしました。最初は戸惑いの連続でしたが、その分既存の振付や演出にとらわれず、池山さんと井村さんが作られた脚本と音楽に惹かれ導かれながら、私も自分の振付をさせてもらう事ができ、貴重な練習時間を過ごしています。

見所の一つとして民族舞踊を多く取り入れたダンスナンバーがあります。アルプス地方で踊られるレントラーや、オーストリアで有名なシュープラッターダンスは、独特の雰囲気とテクニックがあり、バレエやヒップホップ等、異ジャンルから集められたダンサーチームが最も苦労した点であり、そしてジャンルの壁を越えて共演（競演）するきっかけとなった点でもありました。

ブロードウェイミュージカルへと繋がる過渡期のオペレッタ作品であっただけに、コミカルでダンスシーンも多く、ミュージカル好きな方々にもお勧めしたい作品です。私自身オペレッタには馴染みが薄く、まだまだ勉強中ですが、音楽を聴いたその瞬間から体が勝手に踊り出しました。現代は様々な舞台芸術がありますが、色々な分野の方に楽しんでいただけると思います。

Im Weissen Rössl

Rudolf František Josef Benacký

日　時／2月17日（金）18:30
2月18日（土）11:00、16:00
2月19日（日）11:00、16:00
2月20日（月）15:00（団体鑑賞）

会　場／名古屋市青少年文化センター・アートピアホール
［ナディアパーク11階］

料　金／S席4,000円（1F）、A席3,000円（2F）〈全指定席〉

※事業団友の会会員、障がい者手帳等をお持ちの方、学生は2割引
（事業団チケットガイド及び事業団の管理運営する文化施設での前売りのみ）

作曲／ラルフ・ベナツキー
音楽監督・指揮／井村誠貴
上演台本・訳詞・演出／池山奈都子
振付／松村一葉
管弦楽／セントラル愛知交響楽団
主催／公益財団法人名古屋市文化振興事業団

あらすじ

オーストリアのザルツブルク、高級リゾートホテル「白馬亭」の女主人ヨゼッファは美しい未亡人。彼女を慕う給仕長レオポルトだが、ヨゼッファには、ほかに意中の男・弁護士ジードラーがいる。ところがジードラーは、ベルリンから旅行で来た企業の社長ギーゼッケの娘オッティリエに一目惚れしてしまう。その後、ジードラーのクライアントの御曹司とホテルに来た学者の娘との恋が始まり、男女三組の色恋沙汰と、突然のオーストリア皇帝の来訪など、白馬亭は大忙し。そんな中、レオポルトはヨゼッファと些細なことで口論となり、給仕長の職を解雇されてしまう。

さて、白馬亭に集う男女それぞれの恋心の行方は…。

出　演

ヨゼッファ（白馬亭の女主人）／今尾奈々、奥村育子
レオポルト（白馬亭の給仕長）／鏑木勇樹、西元 佑
ジードラー（弁護士）／宮崎智永、木村一輝
オッティリエ（社長令嬢）／真井聖美、ガラティオート尚美
ジギスムント（企業家の息子）／林 雅大、堀 拓哉
クレールヒェン（教授の娘）／原 綾美、福井友香
ギーゼッケ（紳士服メーカーの社長）／遠山貴之
ピッコロ（白馬亭の給仕）／川瀬邦成
ヒンツェルマン（教授）／堀内紀長
皇帝（オーストリア皇帝）／すぎうらとしはる

アンサンブル・ダンサー／市岡優希、伊藤 茜、伊里成未、大倉一将、奥村 響、加古貴也、加藤武志、加藤綾子、川あんり、川 将大、川瀬莉奈、木村亮太、工藤祐里子、小林美由希、田村紗也、早川朋子、早瀬たま枝、森田早貴、山内涼平、山田紘子

※キャスティングを都合により一部変更する場合があります。

～ 関 連 事 業 の ご 案 内 ～

オペレッタ「白馬亭にて」稽古場見学会

オペレッタ「白馬亭にて」では、熱気高まる稽古の一部を公開する見学会を開催します。普段見ることのできない、オペレッタの稽古場を覗いてみませんか?

日　　時：2月5日（日）18：30
会　　場：名古屋市演劇練習館（アクテノン）リハーサル室
定　　員：先着30名（1グループ5人まで）
料　　金：無料
申込方法：友の会会員様先行受付　1月5日（木）9：00～
一般受付　1月6日（金）9：00～
申 込 先：（公財）名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL 052−249−9387（平日9:00～17:00）

名古屋市文化振興事業団 主催事業

1月 2月

チケットは、好評発売中です。

1月から2月にお届けするバラエティーに富んだ公演をお楽しみください。

鬼太鼓座コンサート

日時
1月8日(日) 15:30

会場
青少年文化センター・アートピアホール
TEL 052-265-2088

料金 〈全指定席〉
一般S席3,800円(※S席完売)
一般A席3,000円
(友の会会員S席2,800円、友の会会員A席2,400円)

Pコード 308-266

世界で活躍する和太鼓集団「鬼太鼓座」が帰ってくる!チケット完売、大好評で幕を閉じた公演から1年、さらにスケールアップした舞台をお届けします。
洗練された大迫力のパフォーマンスをお楽しみください!

朗読劇「愛と死をみつめて」

日時
1月14日(土) 11:00、16:00

会場
東文化小劇場
TEL 052-719-0430

料金 〈時間指定・自由席〉
1,000円
(友の会会員・障がい者等800円)

Pコード 455-339

21歳で逝去した大島みち子さんと、恋人の河野実さんの書簡集「愛と死をみつめて」をテキストに、オーディションで選ばれた出演者で綴る朗読劇。

春風亭小朝　新春独演会

日時
1月27日(金) 【昼の部】14:00
【夜の部】18:45

会場
青少年文化センター・アートピアホール
TEL 052-265-2088

料金 〈全指定席〉
1,800円(事業団友の会会員限定販売)
※未入会の方は入会手続きが必要です。※会員様お一人につき3枚まで購入可能。
※未就学児の入場はご遠慮ください。

事業団友の会会員様のみがご来場できるチャンス!
その日の客席の雰囲気によって演目を間際に決めて行うという、ライブ感を重視した内容でお届けする人気企画。ぜひこの機会にご入会ください。

オペレッタ「白馬亭にて」

日時
2月17日(金) 18:30
2月18日(土) 11:00、16:00
2月19日(日) 11:00、16:00
2月20日(月) 15:00(団体鑑賞)

会場
青少年文化センター アートピアホール TEL 052-265-2088

料金 〈全指定席〉 S席4,000円(友の会会員、学生、障がい者等3,200円)
A席3,000円(友の会会員、学生、障がい者等2,400円)
※未就学児の入場はご遠慮ください。

Pコード 313-932

実在するリゾートホテル「白馬亭」を舞台に女主人&給仕長と、個性豊かな来客たちが織りなすコミカルでおしゃれなラヴストーリーをお楽しみください。

チケット取扱い

- **名古屋市文化振興事業団チケットガイド　TEL:052-249-9387(平日9:00～17:00/郵送可)**
  そのほか名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)でもお求めいただけます。
- **チケットぴあ　TEL:0570-02-9999**
  ※サークルK・サンクス、セブン-イレブン、中日新聞販売店でも直接お求めいただけます。
  ※1月27日(金)春風亭小朝　新春独演会の取扱いはありません。

主催 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

公演に関するお問い合わせは名古屋市文化振興事業団チケットガイドまで

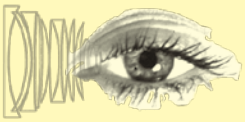
頼もしい味方をお探しですか？

集客・販促プランナー　アートディレクター　印刷コンサルタント

駒田印刷株式会社　TEL(052)331-8881
〒460-0021　名古屋市中区平和2-9-12　http://www.kp-c.co.jp

舞台映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。
ハイビジョンで撮影し
ブルーレイディスクでお渡しします。



ビデオソフトの企画制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム
TEL(052)896-2256 FAX(052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、各所顧客DM、他に配布

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命下さい
MANAGEMENT PRO 株式会社マネージメント・プロ
〒464-0850 愛知県名古屋市千種区今池1-14-11 CASA LUZ302
TEL(052)735-3151　FAX(052)735-3152　E-mail : mpoffice@pa2.so-net.ne.jp

業務内容 ①舞台の企画・制作マネージメント　②イベントの企画制作
③芸術団体のコンサルティング　④舞台・イベントの運営

デザイン・印刷／駒田印刷株式会社

なごや文化情報は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

平成28年12月25日発行(隔月1回25日発行)通巻372号　編集発行／公益財団法人 名古屋市文化振興事業団　〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号　TEL(052)249-9385　FAX(052)249-9386　HP http://www.bunka758.or.jp/